

## —— 資源を再確認するの時 ——

会長 伏見 弘

最近の如く\$切上げに世界中の経済界が揺れているのは困ったことである。幸にしてベトナム和平が実ったけれど、未だ中東においては平静ならず、何処か発火点が移動したようでもある。国連憲章に述べられている人類相互平和を期待したい。

しかし、国連はあっても現実には仲々理想の旗じるしに一致した世界が簡単にはできないことは、人類にとって不幸なことである。約1年前\$360円から切上げが始まって、現在260円台となっていることは全く驚くほど世界経済のめまぐるしい回転で、我々としては専門外であっても不思議である。

これらの裏において最近OPEC, その他、資源確保について、米、ソ、仏、英、中、新興国の間ではげしい掛け引きがあることは新聞紙上などで見、聞くところで、特に最近では資源戦争なる言葉さえ紙面に見られるようになり、不気味な感じを我々は持たざるを得ない。資源の乏しくなった(殆んどない)我が国は、工業発展の原料確保について思い切った施策をとり、国外より資源原料を輸入し、備蓄をとらなければ、二、三次産業の安定はない。このためにも海外資源開発技術、協力を近い所より、広範囲にわたって支援、実施し、後、所望の原料を確保すべく努めなければならない。そのための具体的な展開はやうと近年裏つつあるが、米国流の横車、身勝手にまけず誠意を持って相手国の利益を第一とし、技術援助をすることに意を致さなければならない時期にあると思考している。

列島改造論が盛んである折柄、他面資源の

再生処理方法、廃棄物処理などについて、まだまだ、国内においても環境改善と共にさねばならぬ仕事は沢山あるようである。

資源の大切必要性を共に再確認することに我々専門分野としての意義を見出したいと存じます。したがって、先輩諸兄の御発展、協力などによって当学科の存在意義を一層生かして行きたいと存じますが、同時に今後の教育面、研究面は勿論、実際面での御忠言を謙虚に聞入れ、受入れて学科活動充実に協力、役立てたく、教室一同存じて居ります。

## 資源工学科の現状

大塚良平(昭25採, 教室)

"海外資源の開発", "海洋鉱物資源", "未利用資源の開発・利用", "資源開発の将来性" などなど、今日ぐらい資源問題が新聞、ラジオ、テレビなどで賑やかに取りあげられ、国民の関心をよんでいるときはないのではなからうか?。しかし、現実を直視すると、国内ではあいつぐ炭礦、金属山の休閉山、公害問題、鉱業会社の規模縮小や方向転換などにより私たちをとりまく情勢は誠にきびしいものがある。

これに対処し、しかも将来への飛躍をはかるため、かねてから当教室では教職員、学生が一体となって非常な努力をはらってきた。

この小文はOBの皆さんや新入生の諸君に、私たちの教室が現在どういう研究をし、どういう方面に学生が進出しているかを知っていただくために記したものである。

現在、私たちの資源工学科には1年生93名、2年生70名、3年生58名、4年生65名、計286名の学部学生と、修士課程1年17名、2

年18名、博士課程6名、計41名の大学院学生がいる。結局、学生総数327名の大世界である。これに対して14名の教員、3名の職員が研究・教育の指導その他にあっている。

学部では大体、3年生以上で、やゝ色彩の異なる2系列に分かれて教育が行なわれている。通常、この2系列を1類、2類とよんでいるが、1類は資源を探索し開発する分野、2類は主として開発された素材を処理、加工する分野を対象としている。

さらにこの上につゞく大学院は資源科学、探査・開発工学、原料工学、石油生産工学、安全工学の5部門に分かれ、大学院学生はこのいづれかに属し、研究を行なっている。この中、石油生産工学部門は昨年4月から新しく発足したものである。

従って研究の面から—教育の面から考えても結局同じだが—当教室を眺める場合、1類、2類という立場をとるより、上記の5部門に分類する方が分かりやすいので、こゝではそのようにしようと思う。

#### 資源科学部門

この部門では、後記の卒論、修論題目を一覧しても分るように、地質、鉱物、岩石、鉱床関係の研究を行なっている。したがって理学部的な色彩がきわめて濃厚であり、大学院に進むものが他部門に比較して圧倒的に多い。なお、現在の鉱物学そのものが、一面、material scienceとしての性格をはっきりさせてきているので、この部門からセラミックス、無機化学工業方面への進出が次第に盛んになっている。

#### 探査・開発部門

何といっても、資源工学科の中心をなすものだけに、例年この部門で研究したいという学生が非常に多い。とくに探査部門では研究がきわめて活潑であり、学生諸君にとって最も魅力ある分野と言えよう。進出分野は鉱山、炭礦、地質コンサルタント、建設関係で、商社も多い。

#### 原料工学部門

選鉱、原料処理、鉱排水処理関係の研究を行なっており、とくに鉱業へのアイソトープの利用に関する研究は大きな成果を収めている。例年、金属山、製鉄・鉄鋼関係、排水処理関係に進出している。

#### 石油生産工学部門

昨年4月から発足したもので、とくに油層の開発、油田の評価、ガスおよび油の分離を中心にした現地処理技術について研究を行なっている。また、海洋開発に関する研究もきわめて意欲的に行なわれており、この部門も学生諸君にとって最も魅力あるものだろう。この意味からもスタッフの強化が望まれる。進出分野も石油、海洋開発関係が主体である。

#### 安全工学部門

いうまでもなく現在、最も活潑な研究が望まれている分野であり、卒論、修論題目でもあきらかなように多方面にわたって重要な研究が行なわれている。進出分野としては、性質上、化学関係をはじめ、きわめて多岐にわたっている。

以上、ごく簡単に当教室の研究内容（表参照）や卒業生の進出分野について説明したが、とくにOBの皆さんは、以前と異なり、卒業生がいかにも多方面に進出しているか驚かれたのではなからうか？。最近では、土木建設関係、石油関係、化学工業、セラミックス関係などへの進出がとくに盛んである。1学科でありながら、これ程、多方面に学生を送り出している学科は他にないのではなからうか？。

しかし半面、この点が私たち教室にいる者が非常に苦労している点である。

かって、私たちは採鉱やであり鉱山やであったわけで、この時代には自分の専門に対するイメージが実にハッキリしていたし、学生はそれなりに誇りを持ち、責任を感じていたように思う。現在でも電気や、機械や、化学や、建築やなどなど、それぞれの学科の学生

はそれなりにかなりハッキリしたイメージを持っていることだろう。しかし資源ヤではどうも何んともピンとこない。これは、やはり資源工学の包括する分野があまりに広すぎるためであり、学生諸君にはなるべく早く、各人それぞれにもっと具体的な専門分野を志向させるべきではなからうか？

筆者が、この小文で、5つの分野を敢て強調した意図も実はそこにあるのである。

いづれにしても資源問題には我が国の命運がかかっており、この第一線に活躍する私たちの責任は誠に大きく、それだけにまたやり甲斐もあると言えるだろう。

多年、きびしい産業界でもまれたOBの皆さん方の識見と新入生の若さに期待すること切なるものがある。

#### 昭和47年度卒業論文および修士論文題目と学生の進路

##### 資源科学関係(今井・山崎(純)・大塚) (卒業論文題目)

- 福島県黒沢鉱山の黒鉛鉱床にともなう粘土について
- 関東山地定峰上流地域の地質学的研究
- 関東山地南東部横瀬村地区の地質構造について
- 関東山地三波川変成岩類中に出現するステルブノメレンについて
- 緑簾石鉱物、とくに釜石鉱山産クリノゾイサイトについて
- 天然産セピオライトのローリナイトへの実験的変換
- 三重県菅島に産する塩基性・超塩基性岩類の研究
- 福島県黒沢鉱山の黒鉛鉱石の研究
- 青梅市に分布する砂岩の組成について
- 関東山地秩父村西部に分布する変成岩類の地質構造について

- ガーニエライトの鉱物化学的研究
- セピオライトおよびパリゴルスカイトの水熱処理
- 船橋市船橋ガス井試錐試料中の粘土鉱物
- 常温・常圧下におけるMg系粘土鉱物の合成(修士論文題目)
- 蛇紋石鉱物の熱的性質に関する研究
- 新潟県赤谷流紋岩の岩石学的ならびに火山層序学的研究
- 田代鉱山の黒鉛鉱石の研究(進路)

就職会社名：三井海洋開発 日本化学工業  
東陶機器、大倉商事、ブリッジスト  
ン液化ガス

進学：大学院、早大5、東大1、東北大1、  
金沢大1、転部1

未定：2

##### 探査・開発工学関係(中野・萩原・橋本・ 遠藤)

##### (卒業論文題目)

- 岩盤における発破振動の波群とスペクトル解析
- 地熱地帯の熱伝導の解析例
- 水槽実験による電気探査法の研究
- 岩盤における発破振動の振巾とエネルギーについて
- 金属鉛石の強制分極現象とその測定について
- 大谷石に関する岩石力学的ならびに岩石学的実験とその考察
- 閃亜鉛鉛の強制分極特性について
- S波検層について
- 三輪石灰石鉱床における fracture の統計的処理と採鉱上の問題について
- 赤外線放射温度計による岩盤表面温度測定の可能性について
- 土圧測定装置の考察とその実用性について
- 2・3の造岩鉱物とセメントの反応
- 埋設管周辺の熱応力

- ホログラフィによる岩石のポアソン比の精密測定
- 石灰石露天採掘現場の地圧解析  
(修士論文題目)
- 大谷石の採掘基準設定のための基礎的研究
- ベンチカットの安定性に関する研究
- 戸望石灰石鉱床におけるfractureと坑内空洞の安定性の関係についての研究  
(進路)

就職会社名：応用地質調査事務所，ダイア  
コンサルタント，シュランベルジャー  
ジャパン Inc.，三井建設，日瀝道路，ユニック，守  
谷商会，日本工営，三菱鉱業，三井物産，東  
洋さく岩機販売，新菱冷熱，東洋熱工業，日  
本揮発油，鹿島建設，藤田工業，佐藤工業，  
国家公務員，自営

進学：大学院，早大3，学士編入1  
未定：1

#### 原料工学関係（伏見・原田）

- (卒業論文題目)
- 低品位ニッケル鉱石処理の基礎的研究
- 原油中の重金属除去
- 粘土鉱物類による重金属の吸着
- 各種高分子凝集剤による2・3の鉱物試料  
の凝集沈殿特性について
- 細倉選鉱工場の浮選工程における黄鉄鉱の  
挙動について
- ラドン娘元素濃度連続測定装置に関する研  
究
- ラジエーションエレメントに関する研究  
(進路)

就職会社名：三菱鉱業，ゼネラル石油，丸  
紅建設機械，ゼネラル石油精製，安宅建設工  
業，日本アイソトープ協会，国家公務員

進学：大学院，早大1  
未定：1

#### 石油生産工学（山崎（豊）） (卒業論文題目)

- 浅海洋小型脚昇降式掘削装置の設計
- 石油中の成分別硫黄分布
- 海洋における石油貯蔵基地—橋湾CTS計  
画について
- 油槽岩の比抵抗測定について
- 高圧下における油層岩の歪と孔隙率容積変  
化について
- 三軸圧縮下における油層岩の浸透率測定装  
置の開発  
(進路)

就職会社名：日本海洋掘削，川崎重工，三  
興製作所，鹿島建設，三菱石油開発，石油資  
源開発，出光興産

#### 安全工学関係（井上・森田・房村）

- (卒業論文題目)
- 洗浄法によるPCBの除去
- 大気汚染感知素子の特性
- 硫化鉄による重金属イオンの除去
- ラドン娘元素の粒径分布
- 浮遊粒子状物質の濃度と粒径
- 振動工具の人体に与える影響  
(修士論文題目)
- 自然発火物質の発熱反応に関する研究
- 金属フュームの抑制に関する研究
- 石油中の重金属類の除去—分離に関する研  
究  
(進路)

就職会社名：三井情報開発，ブリッジスト  
ン液化ガス，学研，東亜燃料工業，大正海上  
火災

進学：大学院，早大2，博士課程へ1

#### 海外出張報告

山崎 純夫(昭21採,教室)

昭和46年2月から9月まで足かけ8ヶ月間、  
在外研究員としてドイツに出張致しました。  
エッセンの郊外に在る石炭研究所に滞在し石  
炭の顕微鏡的組織に関する研究の現状につい

て見聞を広めて参りました。この研究所には常時1000名の所員が勤務し年間予算50億円で運営され、さらに国内外から派遣された300名前後の技術者が仕事をしています。研究業務は炭礦の管理・保安、採炭技術、石炭加工利用の3部門に分かれています。私は炭田地質・石炭組織研究部の一室を借用し、ポトニエ以来の伝統を誇るドイツのKohlenpetrologieに接するを得ました。KohlenpetrologieのリーダーはProf. Dr. Mackowskyですが、同女史は斯界の第一人者をもって任じ、とくにコークス原料用炭の試験法は岩石学的にも工業的にも各国のスタンダードとして認められています。

朝8時半に研究所に参りますと、顕微鏡室にマコウスキイはじめ全研究員が集り研究の打合せで一日がはじまります。大きなビーカーに電熱棒を入れ湯を沸かし紅茶が供されます。カップも小型のビーカーです。Schnappsを一杯やるときはさらに小さなビーカーが使われます。研究打合せは手早くすませ雑談に花を咲かせますが、話題はレジャーとしての旅の話、それにマイカーに関することが多いようです。この時間を利用して持参した朝食を食べる人も何人かいました。勤勉なドイツ人も朝めしを食べる時間は勤め先に持込むのが普通のように、銀行の窓口のお嬢さんも口を動かしながらお金の出入れをやっていました。私が顕微鏡をのぞく(gucken.クッケンと発音します)室には女性所員が2名居りましたが、技術・経験ともに一流ながら1日に2時間以上はからだに悪いといつてのぞきません。あとは賑かなお喋りですが、せきこむような早口のドイツ語は殆ど聞きとれません。12時になると室から消え失せます。マコウスキイが2時に迎えに来るのを待って別棟の職員食堂(Kasino)で昼食、30円コーヒーを飲みながら3時半頃まで雑談です。女史がタバコをとり出し口にくわえた瞬間をとらえてゴク自然にライターを差し出すというエチケットを仕込

まれました。女史は紙のナプキンを2・3枚用意していて図解をまじえて諸々のことを伝授してくれたのですが、そのナプキンを丸めて捨てるのも憚られて私はそれをポケットに仕舞い込むのでした。4時半になりますと所内は人気なくなり、やがて掃除のおばさんが廻って来ますと私も退室することにしました。土・日の休みを挟んでこのようなことを繰り返すうちにテンポのおそい歩みながら、確実に前進するドイツ人の自信と仕組みをくみとれたように思います。研磨片、薄片は徹底的に清潔な室で手作業により作られますが、たねもしかけもない熟練した技術者が作り上げるところを見せつけられました。試料を合成樹脂に埋め込むことから仕上げまでに、20分程で立派な研磨片ができ上ります。

エッセン滞在中に第7回石炭紀地質学国際会議がクレッフェルトで開催されましたが、6日間の講演会を挟んでその前後に各種の巡検旅行がありました。私は会議前の一週間はザールブリュッケン地方の、後の一週間はアーヘンからベルギー・フランスにまたがる巡検に参加しました。ザールの巡検は上部石炭紀(Silesium)中部のWestfal-B. C. Dと上部の巡検ではデボン紀に続く下部石炭紀(Dinantium)のTournai並にViséから上部石炭紀下部のNamurにかけての層序を見て廻りました。巡検参加者の専門分野は、石炭地質、化石植物、ゴニアタイト、有孔虫、あるいはコノドントという肉眼では見えない正体不明の微化石にわたり巾の広い専門家集団でした。また国籍も、独、英、仏、米、スペイン、オランダ、東欧、ソ連、それに有色人種のメキシコ人と私に加わるという多彩なものでした。

ザールブリュッケンからマインツにかけて見て歩いた石炭紀の地層は露出が必ずしも良好でなく準平原化した丘陵地の浅い窪地が巡検の見学個所であることが多く、植物化石の採集には先をあらそう有様でした。畑のあぜ

に沿ってわづかに露出する *Stefanium* のポロポロに砕ける露頭では、マインツ大学の若手が花粉分析の結果を熱心に説明してくれました。折角採取した植物化石を落して粉々にわってしまったり、板状の岩片を左手に持ってハンマーの先で剥ぎ取りながら化石を集めることができるような堅さでした。アーヘンからベルギー国内にかけて露出する下部石炭系は石灰岩・苦灰岩の互層が多く、堅いのですが酸で処理すれば、容易にコノドントのような微化石が取り出せます。ブラッセル大学のコニール教授は、コノドントによる細かな地層区分の経過について精力的に説明しました。ベルギー国内の古生層も準平原化され、その丘陵地を流れる川岸の崖に露出しますが、50 m 程のロッククライミングをして登りつめると平坦な農・牧場が展開し、牧草の上の楽しい昼食がはじまるといった次第でした。前後2回の巡検中は朝から晩まで殆ど休みのない、かなりキツイ日程でした。案内者は1日か2日担当区域を説明し、終れば交替して帰ってしまうのですが、参加者は疲労が蓄積する一方でした。日本であれば世話役の苦勞がしのばれる巡検も細かなガイドなど殆どないノドカきでした。会食の席でも参加者の紹介とか乾杯のための演説など一切なく、観光的な配慮、まして郷土芸能の披露などもない気楽な旅でしたが、日を重ねるに従って悠張ったサンプルがズシリと重くなりました。

ドイツの清潔な生活環境と気どらぬ気性は私にとり気持のよい外国生活を体験させてくれました。経費の半ばは借財として返済に追われる身ではありますが、そのような苦勞も忘れさせる思い出の多い欧州出張の旅でした。

## アンカラの冬

鞠子 正(昭28鉱, 教育地学)

十月も終りになると、トルコは雨期に入る。そして標高千米以上では雪となる。五月から

ずっと野外調査に出ていた我々は、アンカラの研究所にもどり、その年の報告書をまとめるわけである。

千九百六十九年十一月、私はトルコへ来て最初の冬を迎え、アンカラで借りたアパートの家具・世帯道具をととのえるのに忙しい毎日を過していた。一人ならば何もアパートを借りずに適当な値段のホテルに住めばよいのだが、十二月には女房がやってくる。それまでに何とか形をつけておかねばならない。日本を出るときには、「何しろ二年間だけだ。小さなアパートで簡易生活をすればよい。」ぐらいに考えていたのが、こちらへ来てそんなわけに行かないことが判って来た。公の仕事で来ている以上、いろいろのつきあいから逃れることはできないし、体面と云うことも考えねばならない。結局、アンカラの高級住宅街チャンカヤの一隅に、二人にしては広過ぎるアパートを借りた。

日本から女房が来ても私はさっぱり楽にならなかった。と云うのは、西も東もわからず言葉も話せない人間を一人背負いこんだことになるからである。仕方なく三日程休暇をとり、トルコ語の特訓や買物の実地指導を行わねばならなかった。かつての日本のように店にならんでいる野菜や果物はときとともに変わり、それだけ季節感を深めてくれる。冬の代表的な野菜には葉の長いサラダ菜マロウ、丸い大根、太くて長い葱、キャベツなどがある。もっとも野菜の名前を一々覚えなくとも「これを1キロ下さい。」「いくら。」さえ云えれば向うで紙に値段を書いてくれる。夏の間氾濫していたメロン・ぶどう・西瓜は今は影も形もない。冬の果物は何といってもオレンジである。マンダリンの類も含めて、次々といろいろの種類が現れる。形は不ぞろいだが、一般に水分が多く甘み、香りが強い。そして有難いことに大変安い。日本のように肥料や農薬をやたらに使ったり、品種改良とか云って形や色ばかり良くすることは

しないし、過剰包装もない。云わば畑で自然にできたものを取ってそのまゝ店にならべたと云う感じである。これは勿論農産物が流通商品として未発達な段階だからとも云えるが、一方トルコ人が加工食品を嫌う傾向があるためではないかと思われる。彼等は夏トマトが出まわるときに、決してびん詰のケチャップを使おうとはしないのである。

長い冬の夜を、多くの人々は日本人のようにテレビを見て過すと云うわけにはいかない。この国ではテレビ放送が始ったばかりで、受信機は庶民が買える値段ではない。工業化は基礎産業や生活必需品に重点が置かれ、冷蔵庫は日本より安い、テレビや乗用車は極めて高いのである。我々もトルコ人を見做い、読書をしたり、友人を訪問したり、ときには映画や音楽会に行ったりして夜を過した。

かってオスマン帝国として強大さを誇ったトルコも産業革命にとり残され、長い間後進国の名にあまんじて来た。今や国をあげて工業化への道を進んでおり、着々と成果をあげてはいる（経済成長率実質12%前後）。しかし近代化を急ぐあまり、バランスを失い、豊かな自然の恵み、あの抜けるように青い夏空、コバルト色に輝く海を失ってはならないと、暖房用の石炭の煤煙で汚れたアンカラの冬空を眺めながら思った。

トルコへ着いて三ヶ月、しばらく温和しかった女房は、ようやく慣れてくると同時に本性をあらわし、日本で取りそこなった運転免許をこゝで取ると云いだした。私は仕事以外のことでも再び休み時間を駆けつり回らねばならないことになったのである。

（註）鞠子 正氏は昭和28年3月鉾山学科卒業、現在、教育学部理学科地学教室勤務、教授。昭和44年4月から46年3月にわたり海外技術協力事業団派遣の鉾床専門家として、トルコ国において鉾床資源開発研究所に所属し、水銀—アンチモニー—鉾床の調査に従事した。

## ある不安全行為

岩崎 孝（昭28鉾，教室）

寒い季節がやってくると、薄いコートのボタンも掛けず、裾を風になびかせながら、前かがみになって、さらにポケットに両手を突込んだまゝ、せかせかと歩いている若者の姿をよくみかける。

寒くないのか、と聞くと、やはり寒いという。それなら、せめてボタンをかけて風を防ぎ、手袋をしたら、という、格好が悪いからと答える。私も試みに同じようなスタイルで歩いてみたが、裾が何かにかみそうな気がして、とても落ち着けない。人の脇をすり抜けようとする、必ずといってよい位いぶつかるし、水溜りも完全にまたぎ切れない。やりつけぬことはしないにせよ、すぐに止めてしまった。両手を振って歩くことが、行動のバランスを取るうえに、最もよい方法であると、長年信じてきた者にとっては、若者のそうした歩行姿勢が何とも不思議である。

そういえば旧軍隊では、特別な場合以外、ポケットに手を入れること、ボタンの掛け忘れは、厳しく禁じていた。敏速な行動を起こすに必要な予備的姿勢を、常に維持するための基礎訓練をしておく、というのがその理由であったことを知らない人が意外に多い。事実、敵より先に引金を引き、より早く地上に伏せて身を守るには、ポケットに入れていた手を引出す僅かな時間的余猶も惜しいはずだし、外とうの裾がひらひらしていたのでは邪魔になる。安全行為の繰返しこそ、最後に生き残るための、最小限の手段であることを、あの悪名高き大日本帝国軍隊でさえ承知していたのである。

戦争がなくなり、「生き残る」などという切実感も必要とせず（？）、歩くことの少なくなった今日では、直接身に降りかかる危険に対処する姿勢を絶えず維持したり、どうしたら歩き易いかなど考えること自身ナンセン

スで、それを人に押しつけることなど、まことにお節介なことかも知れない。ただ、流行のマントを電車のドアにはさまれて、引きづられて死んだ娘もあったことだし、格好よく駅の階段をかけ降りようとした青年が、ポケットに手を突込んだまゝの姿勢で下まで転げ落ち、タンカで運ばれていった現場を目撃したりすると、どうしてもお節介をやきたくなる。大成しない人間の典型的なのかも知れない。

お節介ついでにもう1つ、横断歩道を手を挙げて渡りようとする不安全行為は、是非止めたものだ。手を挙げることによって目標を大きくし、運転者の注意を喚起するというのが理くつらしいが、通常人の手が、それ程大きな目標を作り得るとは思えない。旗か、ハンカチでも振った方が、余程効果がある。

手を挙げて横断歩道を渡っていた小学生の列に自動車が突込んで、多くの犠牲者がでると、運転手がまず第一に責められる。もちろんこれは当然のことに違いないが、咄嗟の停止や、反転動作のしにくい歩き方で、危険な場所の通行を強制(?)させた側も、大いに責められて然るべきだろう。

災害は忘れた頃にやってくるともいわれている。また油断大敵という、古くからのいい伝えもある通り、安全とは、急におこなおうとしてもできるものではない。小さな安全行為の積み重ねが、やはり必要ではないだろうか。

### 卒業にあたって

中村正博(修士修了)

学部・大学院と6年間をふりかえると、いろいろなことが想い出されてくる。早稲田の「資源」に夢をいだし、桜の花咲く中を通った日々。学問にいとみ失望した頃。酒と女と…に狂った日々。しかし、いつも学生として後輩として、そして人間としてあたたかく迎

えてくれたのが、我等の諸先生・諸先輩、そして早稲田であった。東京という怪物の渦の中で、泥水を飲みながら成長していった人間、これがワセダマンである。しかし、これらの泥水はすべて薬以外の何ものでもなかったし、早稲田は温室の役割を果たしてくれた。これららは、弱肉強食の世の中だろうし、毒を薬にかえられるのは自分自身の力以外の何ものでもない。「資源」から学びとった「自然の中の人間」を大切に、社会を大きな翼で飛び回れるような人間になりたい。…疲れたら、とまり木の役を早稲田に託して……

佐藤潤

大学生活をやっと終えた現在、ぼくは入学の時より、どのくらい変わったであろう。受験に少々疲れきりで入学した時と比べてどうであろう。はっきりはいえないが少し元気になった気がする。都会に居すぎたせいかまじめに勉強するのがおっくうではずかしかった自分が、ある出来事以来、まじめに取組めるようになった。その出来事というのは別子銅山の實習である。ともかく日本最古の銅山を見ようと好事家的発想で四国まで出かけたぼくは斜陽な銅山で、普通でさえ投げやりな気持になりがちの中で、真剣に鉱山の問題に取組んでいる採鉱係諸氏の態度に驚いた。「鉱山内は原則的には危険ですので、なるだけ無人化し、できるだけ安全にするべきです。地底に働く人は、地上に働く人の二倍の給料は、もらうべきですよ。」と真顔で話すのを聞いて、なぜかひどくはずかしかった。今でも時々思い出すたびに元気づけられるのです。

今津秀則

44年4月28日は、友人と渋谷にいたが、夕方電車が止まり下宿に帰れなくなった。友人が「新宿までデモがあるからついて行けよ。」と言うから、社共主催デモに入って帰った。

当時の友人は、僕に会うと官憲が、国家権



力がと、警官を父に持つ僕に当こすりのように言ったものである。彼の言うように警官はおそって来なかったが、ヘルメットにゲバ棒がしつこくやって来た。さしたる事なくて進むと、歩道橋でカメラのフラッシュ、彼に言わせると警察に保存する写真だそうで、「へえ、うちの親父も暇なんだな」と思いながら隣の腕組している人々を見ると、皆顔をかくしている。「まあ、その顔じゃ、みんないや、かっこええじゃろ、このわしを。」と一人顔をあげてポーズをとった。今だに、親父が何も言うてこないところを見ると、広島県警は職務怠慢である。疲れて帰ると12時を時計は回っていた。入学間もない思い出の一つである。

#### 杉本文男

この4年間を省みて、思うことは、大変時間のたつのがはやかったことである。ほんとうに、あっという間にという感じが強い。1年の時は学園紛争があり、このために、大学に入りたてにおこるという5月病というやつも地方出身の私にとっては、かるくかかった程度でおわる事ができた。2年、3年もなんとなくすぎてしまった。4年になると、就職卒論などでいそがしかったといえはいえるがしかし、この4年間の最後の1年間にほんとうの学生生活ではなかったかと思われる。

また学科内でつくった“鉄鉱石”という資源工学科にふさわしい名の、サッカーチームがつくれ、学外のチームと対戦し、成績としては敗戦数が多かったが、実に楽しく、すごすことができた。

このサッカーチームが資源工学科内にずっと存続してゆくことを希望する。

#### 葉梨益弘

四年間の大学生活を振り返って、心に強く残るのはクラブ活動と卒論研究である。三年生までの主軸をなしていたのはクラブ生活で

あった様に思う。クラブ活動を通じて、いままでは不足しがちであった精神面での体験を多く積み、精神面での成長をはかろうとしたのであるが、その様な意味ではなかなか有意義な三年間であった。しかし、勉学の面では深く考えとか、じっくり取りくむということはあまりなく、なんとなく過ぎてしまった様な感がある。その為、四年生になってからは専門の勉強や卒論にそのエネルギーを注いだ。資源工学に関してこの一年間で得たことは、それまでの三年間で得たことの数倍にも及ぶように思われる。さらに研究に対する姿勢とか、ものごとをじっくり考える態度とか成果大なるものがあり、卒論に真剣に取りくむことの大切さを痛感している。

#### 岩井道雄

時折、夜ふけの淡い電灯の下で、散じていく記憶の端々をたぐりよせ昔を思い起そうとすると、記憶の糸は思いもかけず複雑に絡み合っていて、丹念に解きほぐそうとすると切れざれになっていく。その切れた部分を補おうと想いを廻らせれば、想いは夢のように暗闇を駆巡り様々な情景を描きだすが、最後には深い溜息となって絡み合っている記憶の糸の中に消えていく。思い出はそんな空白に息づいている深い溜息の様な気がする。

幸せでありたいというのが人間の願いであろうが、それを終局的には夢としかとらえることができない宿命的なはかなさが生みだす憩いの場所が思い出なのかも知れない。

3月の末日にそんなことを考えている。

#### 測量士、測量士補となる資格認定の適用範囲追加についてのおしらせ

理工学部採鉱冶金学科、鉱山学科及び資源工学科で測量学、測量実習を修めて卒業した方は、国の定めた測量士補（さらに実務1年以上で測量士）の無試験認定を受ける資格が

与えられていました。ところが昭和36年4月から鉱山学科は資源工学科と名称を変更し、それを建設省国土地理院に届け出ましたが、手続の不備から昭和37年～39年卒業生（旧鉱山学科の学科配当によって履習した資源工学科卒業生）が測量士、測量士補となる資格認定の適用を受けられなかったのですが、昭和47年7月3日建設省国土地理院長に表記資格認定の適用範囲追加について照会いたしましたところ昭和47年9月18日付で（国地発 第1026号）次のような回答がありました。

測量士、測量士補となる資格について  
（回答）

昭和47年7月3日付理工第301号で照会のあった標記について、下記のとおり回答します。

#### 記

資源工学科における科目は、測量法第50条第1号及び第51条1号に規定する「測量に関する科目」として認定する。

したがって当学部採鉱冶金、鉱山学科及び資源工学科の卒業生で測量学と測量実習を履習した方はすべて測量士、測量士補となる資格を認定されました。

登録申請手続は下記のとおりです。

○所定の登録申請書につぎの書類を添付する。

(1)卒業証明書 (2)測量学修得証明書

(3)測量に関する実務の経歴証明書

(3)は測量士補の申請には不用)

○申請書請求先および提出先

東京都目黒区東山3-24-13

建設省国土地理院総務課

## 直良信夫著『古代遺跡発掘の脊椎動物遺体』出版についてのお知らせ

当教室元教授直良信夫先生は昨年3月古稀を迎えられ退職されました。御退職を記念する業事の一つとして標記出版物の発刊を計画多数の方々から醸金を賜り、おかげをもちまして昨年11月完成致しましたのでお知らせ致します。内容：古代日本の家猫、古代日本の鶏、日本産狼の遺体、鳥取県境港市発見の<sup>フセクワ</sup>人骨其他 198頁、発行所、校倉書房（新宿区戸塚町1-194）、定価5,000円であります。

購入希望者は当教室あて御申込下さい。若干の割引価格にて斡旋致します。

## ~~~~~編集後記~~~~~

第10号をお届けする。

時、正に青葉の候。多数の新入生を迎えて、気分、新たなものがある。しかし、私たち理工学部では全く平静に授業が行なわれているものの、本部キャンパスは相変わらず騒然としている。学部によっては学期末試験ができなかった所もあり、暗い気持ちにならざるを得ない。卒業生の方にも、御心配のことゝ申し訳なく思う。

この10号は執筆者が全部、学内関係者でしめられたが、次号はむしろ学外の卒業生諸氏の御投稿を中心として編集する方針なので、御寄稿を切望する。また、いづれ、何人かの方々には直接、執筆をお願いする予定なので、その節は、是非、御協力いただきたい。

◎住所の変更は必ず、当資源工学会へ御連絡下さい。

資源工学会

東京都新宿区西大久保4-170

電話(209)3211

早稲田大学理工学部資源工学科内

内線(仮)383

郵便番号160 振替番号東京143534

(非売品)